

科目名 診療画像技術学実習Ⅱ

1単位 45時間 夜間部3年 前・後期

担当講師 (X線・眼底検査部門) 田口 好晃、黒川 聡、内田 盛康、坪子 敏和
(超音波検査部門) 河合 繁

教育目標

診療画像技術学実習(Ⅰ)に引き続き、CT検査、X線TVによる造影検査、また、X線検査以外では眼底検査、および腹部超音波検査を中心に実習する。いずれも検査手技を通じて解剖学的知識の習得と、診療放射線技師に必要な画像検査の基礎を養うことを目標とする。

使用教材 実習プリント

新版 わかる音響の基礎と腹部エコー実技 菅 和雄 医療科学社

推奨参考書 図解 診療放射線技術実践ガイド 高橋正治 他 文光堂

一回あたりの学生数 3/5クラス 班の構成 5班 一班あたりの学生数 約5名

出欠確認方法 点呼 試験 無 評価方法 実習レポート、実習態度、その他

授業概要(前期)

(クラス前半はX線検査・眼底検査、クラス後半は超音波検査)

X線・眼底検査部門 (CT/造影、各計2回、眼底検査1回、全5回)

- 1回 実習ガイダンス (CT・X線造影検査)
- 2回 CTの原理と基礎実験 / 造影検査の基礎 (1)
- 3回 頭部CT検査と画像処理 / 造影検査の基礎 (2)
- 4回 胸部CT検査と画像処理、眼底検査(講義と実習) / 胃X線検査と症例

超音波検査部門(計7回)

- 1回 腹部超音波検査ガイダンス
- 2回 腹部超音波検査(肝臓1)
- 3回 腹部超音波検査(肝臓2)
- 4回 腹部超音波検査(膵臓・胆嚢)
- 5回 腹部超音波検査(脾臓・腎臓)
- 6回 頸動脈検査
- 7回 超音波検査総括

授業概要(後期)

(クラス前半は超音波検査、クラス後半はX線検査・眼底検査)

超音波検査部門(計7回)

2回~7回とも前期に同じ

X線・眼底検査部門 (CT/造影、各計3回、眼底検査含む、全6回)

2回~4回とも前期に同じ

【実務経験】

診療放射線技師として国立病院機構に6年半所属、教育機関(専門学校4年)に在職。大学院博士前期課程を修了。実務経験、過去の研究をもとに診療画像技術学実習について話します。(田口)

診療放射線技師としてクリニックに27年間勤務。医療機関での実務経験をもとに、診療画像技術学実習について話します。(内田)

診療放射線技師として総合病院に27年間勤務。医療機関での実務経験をもとに、診療画像技術学実習について話します。(坪子)

診療放射線技師として大学病院に20年間勤務。医療機関での実務経験をもとに、診療画像技術学実習について話します。(河合)

診療放射線技師として診療所、検診機関に12年間勤務。実務経験をもとに診療画像技術学実習について話します。(黒川)